

国・地域名

UAE

【更新】2021年6月

<p><b>人口・経済発展状況等</b></p> <p>〔参考：日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口：1億2,563万人（2020年1月推計値、「人口推移」総務省統計局）</li> <li>●実質GDP成長率：-4.6%（2020年度、内閣府）</li> <li>●1人あたりGDP(名目):4万146ドル（2020年4月、IMF）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口 <b>977 万人</b> 2019年、アラブ首長国連邦統計局(2020年7月28日)</li> <li>・実質GDP成長率 <b>1.7 %</b> 2018年、アラブ首長国連邦統計局(2019年10月14日)</li> <li>・1人あたりのGDP(名目) <b>4万2200 ドル</b> 2018年、アラブ首長国連邦統計局(2019年10月14日)</li> <li>・為替レート <b>29.72 円/AED</b> 2021年6月、財務省(2021年6月)</li> <li>・日本の直接投資額 <b>76 百万ドル</b> 2020年、ジェトロHP(2021年6月)</li> <li>・進出日系企業数 <b>347 社</b> 2019年10月外務省「海外在留邦人数調査統計」(2020年9月14日)</li> <li>・在留邦人 <b>4,358 人</b> 外務省「海外在留邦人数調査統計」令和3年版</li> <li>・訪日外客数 <b>770 人</b> 2020年、日本政府観光局(JNTO)</li> <li>・日本食レストラン数 <b>288 店</b> 2021年、ジェトロ・ドバイ事務所調べ</li> </ul>	<p><b>市場規模 (2020年、ユーロモニター)</b></p> <p>参考：(日本)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生鮮食品：108,874.1百万ドル</li> <li>●加工食品：198,140百万ドル</li> <li>●アルコール飲料：71,307.1百万ドル</li> <li>●ソフトドリンク：59,083.7百万ドル</li> <li>●ホットドリンク：7262.3百万ドル</li> <li>●健康ウェルネス飲食品(*)：55,403.5百万ドル</li> <li>●外食フードサービス：158,206百万ドル</li> <li>●小売・流通業(**)：275,617百万ドル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮食品 <b>7,866.3 百万ドル</b></li> <li>・加工食品 <b>5,954.2 百万ドル</b></li> <li>・アルコール飲料 <b>7,960.9 百万ドル</b></li> <li>・ソフトドリンク <b>4,266.9 百万ドル</b></li> <li>・ホットドリンク <b>1,275.9 百万ドル</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康ウェルネス飲食品 (*左記カテゴリーと重複) <b>2,010.7 百万ドル</b></li> <li>・外食フードサービス <b>10,360.5 百万ドル</b></li> <li>・小売・流通業 (**店舗型、食料雑貨店に限る、税抜き) <b>18,772.1 百万ドル</b></li> </ul> <p>※ 小売額。ホットドリンクはコーヒー、茶など。</p>
<p><b>日本からの農林水産物輸出状況</b> (2019年農林水産物・食品の輸出実績、農林水産省)</p>	<p><b>23位 35億円 うち農産物27億円(78.6%)、林産物1億円(4%)、水産物6億円(17.4%)</b></p> <p><b>輸出額の多い品目： 清涼飲料水等、牛肉、ソース混合調味料、練り製品（魚肉ソーセージ等）、キャビア及びその代用物</b></p>			
<p><b>味覚、嗜好上の特徴</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約1千万人の人口のうち約1割がUAE人（エミラティ）でその他は南アジア、欧米等からの外国人である。出身国による味覚や嗜好の違いを考慮することが重要。</li> <li>エミラティ料理（UAEの伝統的な料理）で使われる代表的な食材は子羊、羊、鳥肉、コメ、ネッツ類、デザート、ヨーグルト、魚介類、各種香辛料で、一般的に乾燥食材が多く用いられる。料理にはハリース、サルーナといったシチュー状の料理、マチュブース、バリヤーにといった肉や魚が入ったコメ料理が代表的である。これらの料理には各種の香辛料が使われるほか、ハチミツやデザートのシロップであるディブスも味付けに使われる。こうした食材や味付けに使用し、UAE人は濃い味、甘い味、脂っこい味覚を好む。また、生ものや新しい食材、味には積極的ではない。</li> <li>・健康志向のオーガニック商品やグルテンフリー等のアレルギー対応商品に関心が高まっている徐々に普及し始めている。</li> </ul>			
<p><b>制度的制約</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉及びその加工品：輸出するためにはハラール要件を満たす必要がある。</li> <li>・豚肉：豚肉は取り扱い許可を取得した輸入会社による輸入、同許可を得たレストラン・小売店で販売が可能。</li> <li>・果物、野菜、コメは植物検疫証明書の添付で輸出が可能。</li> <li>・水産物：天然・養殖の別を示すこと。養殖である場合には、動物性飼料（陸上性動物等）を与えていない旨の証明書が必要（商工会議所発行のサイン証明（衛生証明書の代替））。</li> <li>・加工食品：アルコールが添加されている、畜肉成分（肉・肉エキス等）が混入している食品は原則輸入禁止。商工会議所発行のサイン証明書（衛生証明書の代替）の添付が必要（ドバイ首長国のみ可能）。</li> </ul> <p>&lt;原発関連規制&gt;</p> <p>【すべての食品、飼料】野生鳥獣肉のみ放射性物質検査の対象。</p>			
<p><b>商流・物流・商習慣</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品輸入の際には、日本の公的機関発行の衛生証明書が求められているが、商工会議所のサイン証明で代替。</li> <li>・UAE国内の物流・小売は当地資本の販売代理店等を通じて販売する必要がある。代理店は商業代理店法で保護されており、契約の解除は非常に困難であるため注意が必要。</li> <li>・UAEのカタールとの国交断絶（2017年6月）に伴い、UAEの港経由でのカタールへの輸出は停止状態。</li> </ul>			
<p><b>Eコマースの概要</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UAEでは、多くのレストランがデリバリーサービスのプラットフォームを利用して食事の配達を行っている。</li> <li>・主要な食品販売小売店は、自らのWebサイト上にECサイトを設けて宅配による販売を行っている。</li> </ul>			
<p><b>外食・小売等の状況</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来の富裕層から、いろいろな国から出稼ぎに来ている労働者層まで、多様な住民や観光客がおり、それぞれをターゲット顧客とする外食店、小売店が存在している。</li> <li>・欧州や近隣国から商品が安定的に供給されており、スーパー等の小売店では、生鮮食料品、加工食品が豊富にある。</li> <li>・ホテル内の許可を得たレストランではアルコール飲料の提供が可能であり日本食店では日本酒が提供されている。</li> <li>・許可を得た小売店では、豚肉等の販売が可能であり、豚肉や豚肉等の入った餃子やラーメンが販売されている。</li> </ul>			
<p><b>日本食普及状況等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本食レストランが相次いでオープン。ドバイには年間およそ1,670万人(2019年)が来訪する観光国。サウジ等のGCC域内の観光客も多く、周辺諸国へ波及効果も見込める。</li> <li>・UAEでは寿司が好まれており日本産の水産品や水産加工品の需要が高まっている、また醤油やワサビ等の寿司関連の日本製商品も人気がある。</li> <li>・UAEではWAGYUという名称が広く普及しており、WAGYUの多くはオーストラリア産であるが、日本産はワンランク上と位置付けられており人気がある。</li> <li>・ラーメン店、うどん店や居酒屋風レストランの出店が増えてきており、日本食に対する関心が高まっている。</li> </ul>			